

## 委員会等の会議録

1	会議名	第1回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和5年7月27日(木) 10時00分から12時00分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	7人	
出席者			
6	委員氏名	浦崎 慎太郎、大石 常也、大野 甲子彦、大森 安洋、河野 仁、 後藤 理恵、佐伯 謙、澤近 圭亮、関根 麻里、高橋 翔、 田中 純樹、永元 将博、濱 哲也、浜辺 隆博、濱本 涼、 深堀 毅、前田 眞、向田 和広、森 裕之、山本 正文、 ヤング 亜由美、李 銀姫	
7	担当所属	所属名	水産課海業推進室
		担当職員 (職・氏名)	室長 浜辺 隆博 室長補佐 清水 貴光 係長 廣瀬 琢磨、清水 陽介 主査 吉原 勇作 主事 本田 美紀、賀屋 啓太、中村 一喜 専門員 長田 岩喜 地域おこし協力隊 柳田 亮介
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員 (職・氏名)	町長 清水 雅文
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
清水室長補佐	<p>定刻になりましたので、ただ今から第1回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。本会議は、愛南町長が設置する懇話会の一つとして開催します。</p> <p>それでは開会に当たりまして、愛南町長清水雅文から御挨拶を申し上げます。</p>
清水町長	(開会挨拶)
清水室長補佐	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。これから第一部に移ります。ここからは、懇話会の規則に従いまして座長を水産課長の濱に引き継ぎます。</p>
濱座長	<p>皆さんこんにちは。本日は様々な立場の皆様にご出席をいただき大変感謝しております。また、本会への出席、改めて御礼申し上げます。それでは、委員の皆様から名簿の順に自己紹介をお願いします。</p>
委員各位	(自己紹介)
濱座長	<p>それでは、第一部【プロローグ】の4. 海業について、パネルトーク形式でトークセッションを行います。発表は海業推進室室長の浜辺委員と、東海大学准教授の李委員をお願いします。今回の海業推進会議は、これまで本町で行われてきた会議の手法を少し変えまして、まず、あえて地元の人ではない二人に愛南町について語っていただき、この後の皆さんのグループワークの参考にしていただけたらと思います。それでは浜辺室長、李委員よろしくをお願いします。</p>
浜辺委員	<p>改めまして、本日はよろしく申し上げます。</p> <p>まず、海業の定義を御紹介します。海業は、「海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であり、国内外からの多様なニーズに応じて地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの」と定義されています。私は愛南町に4月に赴任しましたが、びやびやカツオ、アコヤ真珠、カキ、河内晩柑など様々な愛南町の地域資源を知りました。</p> <p>まだまだ御紹介したいものがありますが、こういった地域資源をこの後のワークショップで皆さんに御議論いただきました</p>

発言者	発言内容
李委員	<p>いと考えています。</p> <p>そこで、李先生は海業を御専門にされていて、様々な地域でワークショップ等されていますので、地域資源の御紹介をいただけますでしょうか。</p> <p>海業について、この点だけは是非おさえないという点は、海業はただのマリンビジネスではないということです。単なる海に関連するビジネスではありません。海業は、地域にあまり関係のない大きな民間会社が入って海に関するビジネスを起こすのではなくて、あくまで、地域住民が主体となって地元の中で経済を興すための概念であるという意味があります。今後是非ここをおさえていただきたいです。</p> <p>次に、地域資源とは何かについて紹介します。地域資源は、一言で言うとその地域にしかない資源で、大きく三つの特徴があります。まず一つは非移転性です。地域を離れることができない、あるいは離れた場合にはその価値が大きく下がってしまうことがこれに当たります。次に、相互の有機的連鎖性です。森は海の恋人という言葉があるように、地域とのつながりがなくなると価値が失われてしまうものです。最後に、非市場的な性格です。どこでも調達可能な一般の市場財とは違うものがこれに当たります。</p> <p>このスライドは、地域資源の形態を横軸を有形と無形、縦軸を天然と非天然に分けた表です。天然の有形資源は海や川、無形資源は景観や生態系などです。ホエールウォッチングやウミガメ観察などが無形資源と捉えられます。次に非天然の有形資源は、地域の特産物、そこで開催される朝市、定期市であり、無形資源は、伝統技術、民俗知識、民話、漁師料理、郷土料理などです。このような形で、地域資源を大きく四つに分けることができます。</p> <p>この方法で地域資源を探った後、その生かし方には大きく二つのやり方があるのではと考えています。まず一つは、今まで使っていなかった資源を利用するという方法です。スライドの写真は、大学の実習で学生たちが地域に入って調査した時のものです。静岡では捨てられるアイゴという魚を未利用資源として利用するという方法でした。もう一つは、既に利用されているものを、その使い方、利用の仕方を少し変えてみるという方法です。徳島県の堂浦では、使用していない養殖いかだを釣り</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>屋形として使用しています。本来であれば漁業の道具であったものが、使い方を変えることで観光資源としてや教育資源としての価値を創出しています。</p> <p>ありがとうございます。次に、愛南町にはどのような地域資源があるのか、それをどうしていくのかという話になりますが、先生の御意見を教えてください。</p>
李委員	<p>大学生、大学教育などを受け入れる施設、スペースがたくさんあると感じましたので、環境教育を積極的にやっていくのがまず一つだと考えています。</p>
浜辺委員	<p>実は、愛南町はぎょしょく教育発祥の地で、環境教育、魚や海に対する教育というのがとても広がっている地域だと考えています。</p> <p>また、町内の皆さんにも自分たちの地域のことを伝えていけないといけないと考えています。気軽にダイビングできる場所、サービスがないほか、魚がおいしいと言われながら認知度が低いので、そういう付加価値や宣伝というところに弱さがあるのではないかなと考えています。</p>
李委員	<p>愛南町、本当に地域資源は豊富にあると感じています。私は、その地域に着いたら地域の人たちが思いを込めて作ったというすてきなストーリーがあるものを必ず買うようにしています。そのような場所が愛南町にないのは、もったいないです。</p>
浜辺委員	<p>自分も水産庁で働いていて、出張するたびに自分たちの魚が一番おいしいと言われます。それだけ誇りを持って生産されているということですし、それこそが地域資源です。他方で、さらに付加価値を付けて売っていけばその取組が持続して発展していきますが、消費されることに対する慣れがあるのではと考えています。持続的にやっていくためには、もう少し企画して議論することが必要です。</p> <p>次に、海業は誰がやるのかについて、御紹介をお願いします。</p>
李委員	<p>海業における担い手の関わり方というのは、ワンウェイである必要はないです。地域の地理的条件、その地域資源、ある</p>

発言者	発言内容
	<p>いは人的資源などによって規定されながらも、様々な形があります。</p> <p>まず、愛知県の日間賀島は地域ぐるみでやっている事例です。ここでは、漁業と観光業のキーワードを「連携」としていて、様々な形の連携が生まれて、この域内利益循環システムというのが形成されています。ただ、必ずしもこういう域内利益循環システムのようなものが形成されるとは限らない場合もあります。沖縄の恩納村では、漁業と海洋レジャーの間で共存共栄関係を生むローカルルールが形成されています。このルールは、漁業者にとっても観光業側にとっても大きなメリットがありルールがきちんと作られたことで地域全体が良くなった事例です。</p> <p>もう一つが岩手県の田野畑村の事例で、今のところ私の中では愛南町と近い部分があると感じています。田野畑村の番屋群は、愛南町の石垣の里と同じく未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選に選ばれています。そうした中で、村役場が中心となって観光振興計画を作成して、任意の団体を立ち上げました。それが今ではNPO化され、地元の漁家さんや農家さんたちと一緒にやりとりをしながら、体験プログラムの企画や作成、観光客の受付などを全て行っている事例です。以上です。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。その中間支援組織というのは、行政側が主導して作ったのでしょうか。</p>
李委員	<p>行政が村の観光計画として推進協議会を作り、体験プランを作り始め、その後NPOという形になりました。ここでは行政主導ですが、場合によっては様々な展開があると思います。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。お金のやり取りを非常に密にしている、このような関係性を作っていく、あるいは今既にあるものを更に太くしていくことが成否の鍵を握るのかなと直感的に感じています。</p>
李委員	<p>こういう海業が成り立つためには中間支援組織や行政の支援など様々ありますが、この三つの地域とも地域リーダーが存在しました。地域のために思いやりのあるビジネスを展開する、少しでも地域のものを買うといった形がこれらの事例に共通し</p>

発言者	発言内容
<p data-bbox="252 392 379 425">浜辺委員</p>	<p data-bbox="483 248 1386 327">てあります。愛南町にも、地域リーダーはもういると感じています。</p> <p data-bbox="483 392 1386 470">ありがとうございます。とても良いお話を伺うことができました。</p> <p data-bbox="483 488 1386 663">配布したスライド3ページ以降を説明します。第2部のグループワークへの序章にもなりますが、誰がやるかという話はとても大事だと思います。そのことを念頭に、今回、委員の皆さんに事前アンケートをさせていただきました。</p> <p data-bbox="483 680 1386 759">まず1番目の質問では、海業あるいは愛南町のキーワードと課題を質問しました。</p> <p data-bbox="483 777 1386 996">ここでは、委員の皆さんに客観的な愛南町を眺めていただきました。次に、「それをもし自分がやるとしたら、どのようにしますか」という視点を惹起するため、御自身について、どのような取組をされていますか。どのようなものがあつたらいいか質問しました。</p> <p data-bbox="483 1014 1386 1093">グループワークの中でもこのようなお話をさせていただきます。</p> <p data-bbox="483 1111 1386 1330">また、この会議についてですが、全体会では様々なテーマを議題にします。自律的な取組を次々とポップアップさせていきたいと考えており、そのプラットフォームにしたいと思います。また、本日の内容は事務局で企画しましたが、今後は運営委員会という形で皆さんと共に作っていきます。</p> <p data-bbox="483 1348 1386 1568">さらに、町の未来の話をするには子供たちの声、若者の声がすごく大事ですし、町民の皆さんからの提案も柔軟に吸収しながら話を進めていく必要があります。様々な人の意見を集めながら未来像を作っていく、そこから生まれてくるアイデアを大切に育てていきたいと考えています。</p> <p data-bbox="483 1585 1386 1906">海業推進会議の目標について、今年度に関しては、「なりゆきの未来ではなく、なりたい未来にする会議」としました。ここで、なりたい未来を皆さんに出していただいて、それを一つのグランドデザインを作って、海、漁村を舞台にした海業で創出していきたいです。委員の期間は3年間ですので、3年間の目標については今後の議論で作ります。時間が大分超過してしまいましたが、質疑を受けたいと思います。</p>
<p data-bbox="252 1971 379 2004">後藤委員</p>	<p data-bbox="515 1971 1386 2004">海業を最初、補助事業などで行政主導で始め、いずれは町民</p>

発言者	発言内容
<p>浜辺委員</p>	<p>主導のものに変えていくと考えた場合、今後5年10年で人口が減少します。その後、現在ある地域資源が人が手を入れないことで地域資源としての価値を失っていく、あるいはそれを持続させることができなくなるものもあるのではないかと考えています。将来も見据えた場合、どのような仕組みであれば持続可能なかを考えていくためには、現段階の資源の量、その価値も含めてデータ化し、どのように推移していくのかという部分の共有が必要だと感じています。そのような場合、この場でどのレベルから話し合えば良いでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。この会議をやるに当たり、例えば将来人口予測などのデータを出してほしいというお話を何人もいただきました。今回、事例の紹介やそもそも地域資源とは何かについて皆さんで共有をしながら、まずはそこを議論いただいて、そこからどういうデータを集めたらいいかということを示していきたいので、今回はあえて避けました。次回以降準備しまして、データ、資料などについては順次お示ししていきます。</p> <p>また、補助事業を活用するというお話がありましたが、「補助事業があるからやります」ということではないです。まずは皆さんのやりたいこと、なりたい姿を出していただき、そこに対してどの補助事業を使うかという順番で進めます。水産庁も海業支援パッケージを関係省庁横断で作成していますので、まずはなりたい未来というのを皆さんから出し、議論していただき、それに対する支援策を講じたいです。</p> <p>私は今回愛南町に関わらせていただいています、いつかはいなくなる身です。でも、ずっと関わり続けたいです。その愛南町を未来に残していく、つながっていく、地域資源の形は変わるかもしれない、変わるけれどもそれが本当に大事なのなら、それを更新しながら皆さんが持続的に残していくことが一番大事なのではないかなと思いますので、是非そういう視点でこのあとの第2部を議論していただきたいです。</p> <p>(休憩)</p>
<p>濱座長</p>	<p>それではこれから第2部を始めます。進め方等を浜辺委員に説明してもらいます。</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>皆さんの各テーブルにそれぞれの議題を置きました。地域資源や地域資源を生かす際の課題、地域資源のありたい姿を皆さんに議論していただき、発表していただきます。事前にいただいたアンケートのキーワードをもとに、共通する皆さんでグループを組みました。グループワークは25分、発表を15分という形で進めます。</p> <p>(グループワークのルール説明)</p> <p>11時40分から発表していただきますので、それまでにまとめてください。それではよろしく申し上げます。</p> <p>(グループワーク)</p>
浜辺委員	<p>それでは時間になりましたので、発表に移りたいと思います。まず、Aチームの皆さんから順番に発表していただきます。</p>
山本委員	<p>Aチームは海洋環境保全、環境教育、海ごみプラ、SDGsという形の表題がありました。そこでAチームとしては「愛南町何度も来たいと思う町づくり」を最終目標と考えて様々な意見を集約しました。</p> <p>まず、地域資源ということで今現在、海ごみがかかなり問題になっており、それを地域住民の方がボランティアで海洋ごみの収集をやっていただいています。そこで、海洋ごみもごみとしてとらえるのではなく、資源としてとらえて、その活用方法も考えたらどうだろうかと考えました。また真珠資材の廃材、魚のカスなども、これも全てごみとしてとらえるのではなく資源としてあげさせていただきました。</p> <p>次に課題ですが、資源化するにしてもいろいろな初期投資があると思います。それに対する初期投資のお金、またそれを利用するような施設の確保、併せてその辺のほかの流通など、その辺りを併せて畑地を利用していただける方々を探すというのも一つの課題としてあがりました。また、海洋ごみを収集する人も費用と時間はかなりかかります。魚に関しても、価格の安定、水産物、その辺で愛南町の水産物を愛南町の山に返す、いわゆる愛南町で循環するようなサイクルを考えたらどうかも最終的にはありたい姿として考えていきたいです。海岸ごみを資源とする愛南町、そして、海岸ごみのない美しい町、先ほど言いました何度も来たいと思う町づくり、これを略して、NKO</p>



発言者	発言内容
浜辺委員	<p>Mプロジェクト(Na んども Ki たいと O もう Ma ちプロジェクト)というネーミングを作ってまとめました。以上です。</p> <p>それでは続いてBチーム、発表をお願いします。</p>
森委員	<p>Bチームは、拠点整備、レジャーアウトドア体験ツアーというテーマで意見出しを行いました。まず資源ですが、愛南はやはり海ということで、青い海、無人島、サンゴなど、そういった自然に関する資源が出ました。その海に関わることとして、カツオなどの魚の「食」、ダイビング、釣りなどの「体験」、民宿などの「宿泊施設」、これらが愛南町の持つ資源と考えました。</p> <p>その資源に対する課題として、交通、宿泊施設が挙げられました。宿泊施設の整備、天候に左右されるアウトドアレジャーが多いので、中止になった場合のアフターケアも必要です。情報の窓口、アフターケアをするための窓口、拠点が必要だと考えました。また、オールシーズンのお客さんの受入れ、ビーチがないことが愛南の弱い部分だと考えています。</p> <p>最後に、こうなったらいいなという意見として、人工ビーチとツアーづくりが出ました。また、国立公園に指定されているので、許可を取って整備すること、より付加価値のあるツアーを作ること、魅力ある民泊を増やしていくこと、あるいは情報、ネットワークづくりがあがりました。点と点を線で結んでいくような、そういった情報ネットワーク作り、これが必要ではないかと考えました。以上です。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。それでは最後、Cチーム発表をお願いします。</p>
大野委員	<p>Cチームは地場産品の商品開発と提供PR強化ブランド化というテーマですが、これにこだわらずに意見をたくさん出しました。地域資源はたくさんありますが、それらを活用する基盤づくりができていないという意見が多くありました。</p> <p>料理で例えると、食材はたくさんあるがそれを作る本格的な中華料理店や洋食店、シェフが必要だということです。食材は鮮度が命なので、ここでしか食べられないことは強みにもなると考えました。解決策としては、ガイド、案内などがすごく下手な地域ということで、それを逆手にとって、来た人が自分で</p>

発言者	発言内容
	<p>調べてもらえるような方法を考えました。</p> <p>また、御高齢の方がたくさんいる町なので、シルバー人材の方をガイドにして、元気な人たちにはどんどん働いていただき、そうすることで生まれる交流、コミュニケーションを大切にしていこうとも考えました。</p> <p>また、一番のブランド化は情報発信だと考えました。今までと同じようなブランド化を目指しても響かないので、やるなら響くものを、愛南町らしい肩肘張らないものができたらいいなと考えました。以上です。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。他のチームの皆さん、質問、コメントを是非お願いします。</p>
田中委員	<p>町内に中華料理店がないなど、お話された例は料理でしたが、結局それは人の教育と一緒に考える必要があるということだと感じました。いろいろな観光資源があっても、それを理解して、きちんと即活用できる人を育てることが大切ですよね。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>Cチームの皆さん、逆に育てるところで何か意見はありましたか。</p>
関根委員	<p>もちろん育てることも重要ですが、ずっと住んでいる方たちの昔話、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵がきっかけになると考えています。都会に住んでいるとお年寄りの方と触れ合う機会がないので、そういう人たちを対象に、高齢者の方とやっていきたいと考えています。また、新しくガイドなどを含めてやりたいという人と、お年寄りが一緒に頑張っていくことができたらいいと考えています。</p>
浜辺室長	<p>ありがとうございます。</p> <p>各グループそれぞれたくさん意見交換があり、出てきているもの出てきてないもの、まだまだ多くあると思います。一番大事なことは自分事化して、それに携わる仕組みづくり、それを進めていくことだと思いました。</p> <p>今日は皆さん、たくさん御議論いただきまして、ありがとうございます。アンケートを皆さんのお手元に用意しましたので、</p>

発言者	発言内容
<p>濱座長</p>	<p>8月1日までに事務局に御提出願います。  それでは、進行を濱座長にお戻しします。</p> <p>皆さん、本日は活発な御議論をいただきましてありがとうございます。皆さんが地域資源、そして課題、それに対する解決策をそれぞれお持ちだということが分かりました。と同時に、本日、おそらく全国で初めての海業推進会議ですから、我々も初めてこのような取組会議を行いました。我々海業推進室のタイムスケジュール、会議の進め方の課題も見つかりましたので、次へ解決策をまとめておきます。本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>清水室長補佐</p>	<p>皆様、本日はありがとうございました。これにて本日の議題を終了させていただきます。本日の配付資料と簡単な議事概要は、後日公表させていただく予定です。アンケートを御提出いただいた方から順次、散会とさせていただきます。ゆっくり記載したいという方は、その旨を事務局の職員にお伝えいただき、8月1日までに御提出ください。</p> <p>最後になりますが、第2回の全体会は、9月20日水曜日の午前中を予定しています。現時点でオンラインも含めて御都合が悪いという方が多数の場合は、再考させていただきます。その旨をアンケートに御記入いただければ幸いです。</p> <p>以上になります。</p> <p>本日は、御参加いただき誠にありがとうございました。</p>